

共助

高校卒業後、4月から高山支団八幡班の消防団に入団した松本和之さんに消防団についてお聞きしました。

念願の消防団員になりました



消防車両の点検のようす

が、毎月2回、消防団車庫の清掃や車両・機械器具の点検、訓練などを行っています。

初めて火災現場へ行ったときは、何もできず無力感を感じたことを覚えています。その時さらに、地域の役に立つ消防団員になりたいという意欲が湧き、日々訓練しています。消防団は、地域の安全を守るやりがいのある仕事です。誰かのために何かできる人には適任ですし、消防団に入る

ことで、地域の方との交流が増え人脈作りにも効果があると思います。ぜひ、消防団に入団して、一緒に地域のために活動しましょう。



高山支団八幡班 消防団員
まつもと かずゆき
松本 和之 さん

消防団は、地域の役に立ち、頼りにされる存在

公助

高山消防署職員として2年目を迎えた、直井優奈さんに、火災現場の怖さや仕事内容についてお聞きしました。

初めての火災現場は衝撃的でした



放水器具の確認のようす

を守るべく、再燃による延焼がないように、熱を測定できるサーモカメラを使って、最後まで細心の注意を払い、消火活動を行っています。

火災は、命を失わなかった、怪我が無かったで済んでも、思い出の詰まった家や物など、大切な物を全て奪い去ってしまいます。

ストーブなど使い終わったら消すなど、火災予防のためにできることはたくさんあります。一人ひとりができる火災予防を実践していただきたいです。



高山消防署
なおい ゆうな
直井 優奈 さん

安全を守るために、細心の注意を払っています

消防長から皆さんへ



まつやま たかお
松山 孝生 消防長

「地震雷火事親父」の昔と今

今、皆さんはどのような災害を恐れているでしょうか。高山市においても、毎年のように豪雨、大雨に見舞われ大きな被害を受けました。ことわざの一つ「地震雷火事親父」には、親父は地震などの災害と同じくらい怖いものという意味があります。今では親父を別の人に置き換えて使うこともあるようですが、災害は多様化し多く発生するようになっていきます。

その中でも、身の周りで発生し、皆さんの命や財産を脅かす災害は、「火事」です。私達の生活に欠かせない「火」をいかに安全に有効に使うかを考え、身近な火から命や財産を守る火災予防を実践する意識こそ、未曾有の災害に備える第一歩と考えています。

命や財産を守る火災予防を実践してください!